

<資料>田淵直氏オーラルヒストリー(2) : 大阪における教職員労働組合運動

梅崎, 修 / 島西, 智輝 / 南雲, 智映

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

生涯学習とキャリアデザイン : 法政大学キャリアデザイン学会紀要 = Lifelong learning and career studies / Lifelong Learning and Career Studies

(巻 / Volume)

16

(号 / Number)

1

(開始ページ / Start Page)

129

(終了ページ / End Page)

154

(発行年 / Year)

2018-11

〈資料〉

田淵直氏オーラルヒストリー (2)

—大阪における教職員労働組合運動—

法政大学キャリアデザイン学部教授 梅崎 修
東海学園大学准教授 南雲 智映
東洋大学経済学部教授 島西 智輝

1 解題

本オーラルヒストリーは、戦後の教職員の労働組合運動で活躍された田淵直氏（1940年生まれ）の口述記録である。既に我々は、梅崎・南雲・島西（2018）「田淵直氏オーラルヒストリー（1）—大阪における教職員労働組合運動」を刊行しており、本稿は、これに続く2回目の口述記録である。梅崎・南雲・島西（2018）の繰り返しになるが、本稿から読み始める読者もいると考えられるので、田淵直氏とオーラルヒストリー調査について説明する。

田淵氏は、大学を卒業後、豊中の小学校で教師として就職し、その後すぐに日教組（日本教職員組合）に加入した労働組合リーダーである。

組合リーダーとして、学力テスト反対闘争、1996年10月21日午後半日休暇闘争、教頭法制化反対闘争、定年制反対闘争、主任制反対闘争などの数々の労使交渉を主導し、また、大阪教職員組合の中央執行委員長をはじめとした様々な組合の役職を担い、大阪教職員組合の組織運営に携わられてきた方である。

ところで、大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）館長の谷合佳代子氏が、大阪における労働組合運動の歴史を研究したいと思っていた我々に田淵氏を紹介していただいたのが、オーラルヒ

ストリー・インタビューをはじめたきっかけである。2015年11月23日、2016年1月11日の全2回でインタビューを行った。

次に、この2回目のオーラルヒストリーの資料的価値について、次の5点をあげておく。

第一に、これまで光が当てられることがなかった退職者による組合活動について把握することができる。教職員組合は、他の労働組合よりも退職者の活動は盛んであることが分かる。

第二に、女性組合リーダーの活躍、共済組織、組合活動をする場所、慰霊塔などの教職員組合の職場文化や慣行について理解できる。

第三に、教育改革に対して、労働組合はどのように対応したのかが詳しく語られている。組合運動よりも教育制度に関心がある方々にも有益な情報を与えてくれるであろう。

第四に、沖縄問題、平和運動、阪神淡路大震災支援、海外との交流などの社会的活動に対して教職員組合が果たした役割が分かる。

第五に、教職員組合に対する批判的意見に対して、ユニオン・リーダーが内側からどのように見ていたのかが語られている。日教組に対するネガティブイメージの誤解が語られている点も希少な証言と言えよう。

本インタビューは、大阪産業労働資料館の会議室で行われた。田淵氏が主たる語り手であるが、

同席した後輩組合員、特に田淵氏が中央執行委員長時代に、副委員長を担った門川順治氏にも発言していただいた。お忙しい中インタビューにご協力いただいた田淵氏、門川氏、および本稿の取りまとめでお世話になった大阪産業労働資料館の谷合佳代子氏、千本沢子氏に感謝を申し上げたい。

なお、本インタビューは、録音の他に撮影されている。文字起こしされたものは、紀要の上での読み易さを考えて編集している。映像の方は「労働史オーラルヒストリー・アーカイブ」(<http://shaunkyo.jp/oralhistory/index.html>)で公開予定である。

2 口述記録

《退職者の集まりを作る》

梅崎 それでは、2回目のオーラルヒストリーのインタビューを始めたいと思います。今回もよろしく願います。

前回の終わりのところで、どの辺までお話していただいたかということなんですけど、連合が結成され、大阪連合ができあがって、新しい大阪教組が再建され、どのような部署ができたかというところで終わりました。

事前に用意していただいた資料を見ますと、ちょうど3ページのところですね。そこからインタビューを再開させていただきたいと思います。ひとつ大きなトピックとしてあげられているのが、退職教職員の協議会。大阪連合ができあがったあとに作られたということなんですけど、このあたりの経緯からお話いただけますでしょうか。

田淵 はい。今日は門川さんも、八島さんも今、現会長ですから、僕より詳しいかと思いますが、それまでは女性の退職者の組織は日教組全体、全国全体であったんです。退女協かな、そういう組織があったんです。それで、全国で展開がされていたんです。日教組が分裂をして、全教の人が出て行った後ですね、それで全退職者組織を作る必要があるのではないかということになりまして、

大阪でも退職者組織の結成をやりました。あれ、1993年ぐらいでしたか、門川さん？

門川 1年。

田淵 1991年ぐらいでしたかね。そのころに当時のOBの皆さん方に集まっていたいてね。まず作って、その次、うちの退職者会も連合体なんです。教組が連合体なんですね。従って、その先の連合体の本部だけができて、次には各地域の退職者組織を作らないかんとということになったわけです。僕は豊中ですから、豊中市の退職者会ができ、門川さんは守口ですから守口の退職者会ができ、それから大阪市は大阪市の市教退、八島さんのとこですけども。市の職員全体を表すから、市の、教を先に持ってきてね、大阪市の教職員退職者会という名前にして、ちょっと逆になっているけど、そういう組織があちこちできて。今、なんぼできたんですかな、全部で。

門川 今で24です。

田淵 24ですか。そこで役員がおって、それから年1回、私ども、総会を開いて、いろんな取り組みを様々やっています。特に最近の特徴としてはね、退職者会を主に担わなきゃならないのがね、政治闘争なんです。選挙と、それからいろんなデモ、集会もありますけどね。

これはご案内のとおり橋下さんがそれを禁止する条例を作ったんですね。それで現役の皆さんが、いわゆる公選法に基づく範囲内、といってもほとんどできないということですね。投票権は行使するけれども、表に出て家庭訪問するとか、チラシを配布するとか。それから当然、選挙になると看板を立てたり、様々なことがありますやん。それがほとんど禁止をされた。従って、それをじゃあ誰がやるのかということ。我々退職者がね、ほぼ担わないかん。それで、まあ、かろうじて彼らができることは、電話をかけるということですね。それぐらいのことはやってくれますけども、まあ、

そういうことぐらいしかできない。

それから、これも大阪市内と大阪府域と違うんですけど、大阪市内の教職員に対する締め付けはもっと厳しいですわね、今。学校で、いわゆる分会会議も開かせないわけでしょ。教室を貸さないということですね。そういうこともあって締め付けがきついで、大阪市内の教組、大阪市教組がありますけども、ここが集会に来て旗は立てるけれども、大阪市役所向けにデモをするというようなことになるとね、デモには参加しないとかね、できないとか、こういう自主規制も含めてね、そういう動きが出てきているわけですね。

だからそういう意味では、なかなか前のようにいろんな政治にかかわる課題について、集会に行ったりデモをしたりするということがきつくなっていますね。だいぶ自主規制も働かせているところもあるのかもしれませんが。その分を退職者がやらないかん。圧倒的には選挙の時には、退職者が、もう70過ぎが家庭訪問したり、自動車の運転をしたりしてね、選挙せざるを得ない。我々是我々の課題をね、それなりにやりますけども、この現職の皆さんのできない部分をね、受け持つことが多いですね。

梅崎 勤務外の時間でも現役の方に縛りが強くなってきているということですよ。

田淵 相当強くなりますね。

梅崎 もう退職者の方が活動するときには、もちろんボランティアでやるしかないですよ。

田淵 ボランティアです、はい。

《女性組合員の活躍》

梅崎 田淵さんの資料の中に、退職者職員協議会と一緒に、退職者女性教職の会もある。この2つが出てきているのは、どうしてなのでしょう。

田淵 組織の仕方がね、男女一緒と、男女2つに

別れている。私どもは大阪府退職教職員組合協議会。豊中も豊中市の教職員組合なんですけどね、そこでは男女一緒にやっているんですよ。ところがこの府下のトップのところで二つの退職者会があって、これは歴史が古いんですよ、私たちは退女協と一緒にしろと言うんですが、これはまたこれ。あんまり言うたら語弊があるんで言いにくいんですがね、女性の人たちがね、また男の言うことを聞かないかん組織かと。こういうね、思いがあるんだろうと思うんです。私たちは私たちが自主的にやります、と。もう結構です、と言うて。だからそういうことがあって、地域で退女協の下部組織である地域の退職者の女性組織を持っているのは、吹田と枚方と、八尾。この3つだけです。

門川 堺。

田淵 堺もそうか。この4つかな。でも、堺だって吹田だって、それから八尾だって、男だけの組織のところではないからね。うち、男とは限定していませんから。そこに女性がおることはおるんですよ。しかし退女協のほうには男性は1人もいません。豊中で言うたら、豊中の退職者会に入らないで、個人加盟と言ってそっちへ入った方も何名かあります。大阪府退教にも入ってるけども、豊中の組織にもちゃんと入ってる人もいます。

梅崎 両方入っているということですね。

田淵 そうということですね。

梅崎 何か、何となくわかる気がしますが、まあ、女性の人たちだけで集まって、その懇親も含めて楽しみたい、という部分があるわけですよ。

田淵 楽しむというよりも、やっぱり、なんちゅうかな、男性にいつも、ずっとねえ。何をやっても。

八島 あの、我々が勤めた頃ね。私はこうだっ

たんですけども、職員、教員の中で、事務職も含めてですけども、女の人がきわめて少なかったんですわ。

田淵 当時はね。

八島 でね、これも今から言うたらもうありえないような差別やけれども、1年生を担任して2年生を担任するでしょ。そうしたら3年の担任を外されるんですわ。

梅崎 女性がですか！

八島 うん。で、その中で3年の担任をする女性は、まあ言うたらその中のエリート的な教員でないと3年の担任をさせないとかね。そういう実態が現場にあったんです。その方々が、いわゆる卒業をしたらどうなるかという、やっぱり自分たちを守らないかと。で、田淵さんも言ってるように、男の下につかないようにと、こういう部分はあったんじゃないかと思います。気分的にはね。

田淵 今、八島さんが言った当時なんかはもう全部、教頭も校長も女性はいませんからね。ほとんど要職と言われるところは男性が取ってた時代ですね。その中から、いわゆる女性の人たちは、男女共生教育やとかね、こういうものを大事にせないかんとということになった。男と女と分けて名簿こしらえるのもおかしい、とかね。並ぶときも男列、女列やなくて、背の低い者順に並べ、とかね。まあ、全部がそうなってませんけどね。そういう抵抗運動があったもんです。女性の人はそういうのが頭にありますから、また一緒になったら必ずまた下請ばかりさせられて、と思うんですよ。しかし、今、現役の組合ではそうじゃないですわね。委員長もいますし、女性の副委員長もいますし。

門川 小学校の校長の6割が女性なんですよ。男が校長で教頭も男という学校はありません。これ

は小中学校とも。だからね、まあ、むしろ男性教職員退職者会を作りたいと思うぐらい。だから時代はね、僕らが子どものころの先生というのは、ものすごい優秀な人でもね、教頭や校長になれなかったんです、女性は。女やからということだけで。うちの学校の校長先生って女やて、て言うたら地域が怒るんです。

田淵 そう、地域がね、変な目で見るとかね。

八島 だから、もうそろそろ一緒になろうよ、て言うたらね。また門川さんとか田淵さんとかの元で暮らすのは嫌、とか言われて（笑）。だからそういうことも。だからうち、連合大阪の退職者会には役員として2人入っているのはそういう事情です。

田淵 だけど、東大阪なんかもね。退女協という女性の組織が強かったんですけど、もう10年近く前にね、合併をしてやってはりますし。

八島 初代会長は女性ということにして。

田淵 全国的にも大阪のようなところもあれば、もう一緒にやってるところもあれば。ちょっとオフレコやけどね。今はどうかわかりませんが、私が日退教の役員だった時はM県だけね、日教組の退職者会に入ってきておらんのです。何でや言うたらね、M県の退女協、すごく強いんです。ある人が私の目の黒い間は絶対入れさせへんと言うてがんばってはるそうなんですけどね。入ってけえへん。そこはもう退女協が仕切ってるんです。

だから連合本部も、こっちの大阪の連合も含めて、退職者扱いはいろいろと複雑なんじゃないですか？ だけど、僕も九州とか、四国とか、中国ブロック行きましたけども、そんなはっきりは別れてなくてね。どういうふうに対応してるかということ、たとえば兵庫県なんかもそうなんですけども、兵庫県の退職者会なんですけども、女性部が退女協の呼びかけの集会やったら行きます、と。こうい

う慣行を作ってるところは多いですね。別れてしまうんじゃないにね。

《退職者の社会的活動》

梅崎 退職者の会なので、選挙という形では政治活動をなさっているわけですけど、普段は、懇親の場でもあるんですか？

田淵 僕は豊中の実態しかよくわかりませんがね、豊中で言うたらやっぱりいろんな、この安保問題の集会なんかはうちのほうでほとんどやりますし、後は、山を歩く会とかね、ゴルフの同好会とか、いろんな同好会があつてね。そういうのは日常的にやってます。

もうひとつやり始めているのは、市の、たとえば福祉部とかが、出前で講演に来るでしょ、この頃。豊中市の老人問題とか、福祉問題についてね。そういう問題はやっぱり単身の女性の方が結構多いですから。歳とって、やっぱりどうしようかと不安なんですよね、老後の問題。まあ、もちろん選挙もあつて。日常的に何をやってるかといっても、そんなに、何かあるわけでもないですけどね。

門川 あのね、最近ちょっと増えだしたのが、子どもボランティア。元教師でしたからその力量を活かしてね。これ、池田で始めて門真や守口でやって、大阪市はね、橋下さん以前に、そういう退職した教師を留守家庭児童会の教師のあれ、なんていうの？

八島 いきいき？いわゆる学童。

田淵 学童保育。

門川 そういうところへね、退職者に声がかかることは非常に増えました。

田淵 供給元になってね。

門川 私が会長で、今、八島さんに変ったん

ですが、その前ぐらいから解放同盟が言い出して、そういう元教師のキャリアを活かしてね、子ども支援しています。とりわけ無料塾がありますね。学習塾は高いですね、そういう差別された子どもや家庭が貧しい子どもたちのための、その教育をやってくれと。まあ、週にいつべんかにへんね、行ってくれ。すでに始まっているところもあるんですがね。

それと結構ね、退職した教師はね、他の民間労組の人に対して悪いけれども、本当に地域の自治会の役員をしたり、人権擁護委員をしたり民生委員をしたり。

田淵 公民館とかね。

門川 まあ、何もしないという奴には、僕は怒るんですよ。校長してて退職して、もうええわ、もうゆっくり遊ばしてもらう、ヨーロッパ行きたい、アメリカ行きたい。それはええけども、少なくとも70歳、元気なうちに何かしいよ、ということ。やっぱり何らかの形で自分らのキャリアを活かして、社会に貢献するというね。まあ、私が会長で、田淵さんが副会長、八島さんとね。実際上は田淵さんに指導していただいたんですが。それはまあ、結構、強く、活発になってきた。

それから、やっぱり橋下さんのおかげですね。橋下さん、あれだけ学校教育をむちゃくちゃされたらね、元校長先生、全部怒ってしまいました。決して戦闘的とは言いませんがね、敵は維新やで、と言うたら、もう無条件で来るんですよ。まあ、わりかしと楽しみもするし、社会運動にもちょっとは参加する。しかも強制しないで、案内だけする、ほならね、自発的に結構、集まってくれますね。

やっぱり田淵さんが退職してから後に府退教ができて、多岐にわたって活動しています。それ以前はもう本当に各地域に退職者会があつても、それは親睦のためだけやったんです。それがずいぶん変わった。まあ、もちろん平和人権センターとか、そういうやつはあるんですが、非常に変化が

大きかったと。

《空間としての職場がない苦勞》

梅崎 教師の方は、やはり職場が地元で、近くにお住まいになっているわけだから、民間企業で全国転勤されてるような方とはだいぶ違うところもありますよね。

田淵 そやけどね、やっぱり、しんどいのはね、職場が無いでしょ、僕ら。地域があっても、家単位ですから。連絡ひとつが大変なんです。職場があればね、職場で連絡しとけば全部伝わるんだけど、それがない。それから、会費の回収の問題ね。うちなんか振込制でやってますけども、やっぱり入ってるけどもずっと振り込んでえへん人もおるしね。いかに会費を納入するかということがありますわね。だから、高槻にも退職者会があるんですけどね。高槻の『情報』を手配りしています。地域決めて、何丁目のどこかは田淵、どこは誰々、というふうに決めて手配りしています。手配りができるようになったら会費もね、手集めができるようになるんです。しかし、できてもやっぱり高槻市内だけですわな。市外の人でも会員がいますから、それはまあできないでしょう。

梅崎 退職者組合の事務所がある？

田淵 事務所は無いです。事務所があるのは大阪市だけです。全部、現役の事務所の会議室を借りてます。その時にだけ、会議のときだけはね。それがもう財政問題とそういうその情報伝達ね。そういうものがなかなかむずかしい。日常的に事務局を持ってないとね、厳しいです。だけどやっぱり歳取ってからでもね、自分だけの問題やなくて、世の中に関わる課題、たくさんありますやん、年金やとかね、医療やとかね。そやから退職したからええねん、というわけにはいかんです。そういう人たちは、退職者で、どれぐらい入ってくるかね、退職しはる前にね、この2月もやるんで

すけどね、集めてね、現役と一緒にあって、何年間か教師生活ごころうさんでした、という、ごころうさん会、飲み会をして、退職者会の加入届けをお願いするんですけどね。やっぱりそれでも半分かなあ。半分の人たちは、もうええわ、と。こんな人が多いね。もうええわ、あれこれ束縛されるのはええわ。

門川 選挙やらされるという噂を聞いてるから。

田淵 そやけどね、言うねん。今日、行くところがあるとかね、これがもう大事やで、と。何もなくて何すんの、と言うんやけどね。やっぱり一人一人によって違いがありますからね。なんぼ言うても無関心な人は無関心やしね。

《共済組織の運営》

八島 大阪市のね、管理職のほうは、ちょうど今頃、最後の校長会とか、退職会やってんねん。小学校なんかね、昔はね、ほぼ100%、会員になってん。中学校で、まあ9割ぐらいかな。最近、小学校でも会を開けへんという状況になってくるからね。まあ、退職したら、やれやれということで、自由奔放に生きてる人もおると思いますわ。

梅崎 他の産別の組合のOB会も同じような傾向にあると思います。あと、この日教済をお書きになっているんですけど、これについてもお話を。

田淵 これはね、こないだ50周年やったんかな。50年前にね、日教組の組合員に対する共済組織というのを作った。日本教職員共済というのを作ったんです。

その時に議論があったのはね、全教系の皆さんはね、こういうのを作るのには反対やと言うんです。何でや言うたら、福祉、老後の問題なんているのは政府がやる仕事やないか、と。それを我々がやったんでは、その政府の怠けを容認するみたいなことやと、まあ建前論か何とかがあつてね。いろいろと議論がありましたけども、まあ、反対

は少数でして、できあがったんです。

全員に呼びかけて、全員が入ったわけではありませんけども、そういう共済組織ができあがったんですね。それでね、ちょうど半分ぐらい、30年ぐらい経った時に、日教組だけの、こういう生協運動ではアカンと。従って、すべてのオール教育界の団体をね、一緒になってやろうということが機運として出てきましてね。それで私学の共済もいらっしゃる。文部省の人も大学もいる。校長会、教頭会とか、いろんな組織がありますわ、全国的にね。11団体やったかな、ちょっと忘れちゃったけど。それが相寄ってね、拡大をするために再編したんです。そうすると日教済ではね、これは教組の共済やないかというので、名称問題も起きてましてね。今は、教職員共済生協と。教職員共済の生協。生協認可にしたりしてるんです。今はね。

分裂の時はまだ日教済だったんですよ。大阪やったら、必ず大阪の教職員組合の横に事務所があって、その支部長は当時の委員長が必ずやるということになってたわけです。従って、今、言いましたように、私どもが大教組を取られて、全教の委員長が委員長になりましたら、彼がやっぱり教職員共済の支部長になるわけですよ。あと、その事務局をやるのが、我が方ということで、そういう運用をずっとやっていたんですね。ほんで、この分裂の時に、教職員共済として、彼らもよそへ行くけども、そこに入ることは十分オッケーなんですよ。排除しないから。だけどそれ、そのうちに彼らは彼らで、全教共済というやつを作ったんです。で、別のところに、事務所を構えたんです。もうちょっと後からになりますけどね。

その時に、いわゆる支部長印という印を彼らは持っているわけです。それを取り返ささんことにはね、判ひとつ押せないことになってね。まあ、取り返すわけです。どうして取り返したか知らんのやけどね。とにかく取り返すんです。そうすると便所で会うたびに返せ、返せていうて迫られた。そういうことでめ事が起きたわけですね。もめた後、別れるということになったんです。

その時に財産問題が起きたわけですね。全教に行っている人が、全教に行ってて、入っているお金は自分でキャンセルしたら返してもらえますから、それはいいんですけど、まあ余剰分で貯めているお金がありますね。それをどう分配するか。向こうは全部、持っていこうとするから、裁判をするということがあって、我々側も日教組から弁護士、楨枝さんとかいろんな人が来てくれて、それから大阪の竹村さんという弁護士さんがいますけども、彼らに頼んでね。向こうの弁護士といろいろと協議をしてもらってね。

結局、裁判で争うのではなくて、最終的には和解という形で分割をしあうんですけどね。まあ、そういうことで彼らは出ていったんです。教職員共済はそのままその事務所に残ってね、今もきちりとした運営をやっているんです。従って今も教職員共済に入っている全教の会員さんもいます。それは得か損かと言えば、全教共済なんて小さな組織と、大きな組織、どれが得かと、いうのはようわかってますから、残っている人もいます。だけど、まあ、その全教の指示に従う人たちはこぞって脱退しますわね。全部あっちへ行きますわね。しかし、あんまりわかってないと言うたらいかんけども、日教組やったからと日教済に残るわけですよ、いろんな地域で。そういう人たちは残っていると思いますよ。そら、有利ですよ。規模の大きいのと小さいやつはね。そういう事件があったんです。

梅崎 今、現役の方ですと、この共済に入っている方は、割合的にはどれぐらいになるんですかね。

田淵 多いですよ。毎年新採者1000人を超えて入ってますから。

門川 組合に入らないで非組で入っている人もいますから。

田淵 今、3000人ほどの採用があって、この後、

数年までは、採用があるんです。退職者がおりますから。そのうちの約半数近く入れてるんじゃないですか。

門川 3分の2ぐらい入ってますね。

田淵 だいぶようけ入れてますよ。やっぱり有利です。僕なんか見てたら。年金なんかね、退職する校長に言うんです。絶対、銀行なんか置いておかんと、教職員共済へ預けるほうが得と。1千万とか、2千万まで預けられるんです。2年間据え置きしてね、もらえていくんですよ。僕もこんな言うたらいかんけどね、退職するときね、6万円と、もうひとつ入って、もうひとつはもう切れたんですけどね、月6万円、8万円や。8万円の分がね、今、月12万くれますよ。10年経ってますけどね。だから、そういう点ではね、銀行に預けて利子とか、危うい株を買うよりね、別段そんなすることないんやったら入れとき、と。絶対損はしないというて言うてあげたら結構入りはりますよ。退職金をそこへ入れてね。しかしまあ、時勢が時勢やから、いろいろと厳しいのは自動車なんかもあるんですよ。昔はね、全労済ね、今もありますけど。火災は全労済で再共済するとかね。それも全部再共済やめて、教職員共済が全部やります。しかし元請の会社は別にありますから、生命保険とか損保がありますからね、それはそこで運用してますけどね。全労済の再共済は全部やってません、今。

門川 今、出金総額が1兆ですからね。単産、いわゆる昔の単産共済では、自治労さんも今度は全労済にいかはりますからね。もう1兆の資産を持ってるんですよ。もちろん生協ですから、金利運用が、株式が何%以下、あと国債なんば、と、こういうルールと、それから本部には資金運用係がかなり優秀な銀行マンで、いろんな形で来てくれた人が資金運用してくれはりますからね。まあ、他の大銀行が集めたらやっぱり同じようにつぶれる、日本の国がつぶれたらつぶれるでしょうけど、

まあ、そういうことがあって。それから先ほど田淵さんがおっしゃった長期年金共済なんかもです。ね、田淵さんの時代は3%運用の金利。で、私のときには2%運用。で、八島先生のときは4%、5%運用。

田淵 最初は8%というのがありました。

門川 今のね、80代の方は8%運用の複利計算ですからね。取り過ぎ、もう、取られすぎ。それを改編しようとして財務省に申し出たら。

田淵 金融庁。

門川 あかんかった。

田淵 金融庁はダメ。最初の契約の変更はダメ、言うてね。

門川 だから今の80歳代の方はね、そら、8万円で契約しといたらね、複利がききましてね、15、6万もろてはります。その上、年金ぎょうさんもろうてはって。あそこはもっと消費税重うしたらええのに、て思うぐらい。だから教職員共済もちょうど我々が新しい組織を再建して、田淵さんの前、岩井さんという人が委員長でしたがね。岩井さんや田淵さんの時代に、非常に大阪でも安定して。全教の組合員でもうちに入ってはった。さすがに黨員さんは入ってはりませんがね、普通の人は入ってはった。

田淵 それはね、最初はその頃、8%運用でやったときね、2年間据え置きで上限2千万まで入れられたんですよ。そしたらある夫婦がいてはって、お父ちゃん2千万入れはって2年間置いておかはる。2年間8%の利益もらう。で、ぱっと下ろさる。全額。今度はまたお母ちゃんが2千万ぱっと入れはる。あれはごっつようけ儲けはったと思うで。2年ごとにね。はあ、よう考えてはるなあ、思うて感心したことがあるけどね。ま、

その8%が、だんだんこうなって、今、なんぼぐらいやる？

門川 今は1%運用ですからね。

田淵 だからまあ、分裂で財産分けも必死でしたよ。やっぱりこっちも損せんように、あいつらにとられるのはけったくそ悪いね。どっちか言うたら、こっち側の単組のほうが一生懸命やっていたんです。そのこともありました。

門川 全教さんの、全教共済で言うてるけども、これは共済ではなくて、ある会社の商品を出してはるだけなんでね。金融機関、某金融機関の商品の販売をやってはるだけなんで、むしろ持ち出しのほうが大きいかも知れませんね。うちはむしろ、もちろん組合活動に一切使いません。共済の、収益は支部に。400万、500万する印刷機械を教職員共済が出して、それで授業のために使って下さい。ついでに組合も使うこともある、いう形です。いぶん皆さんには評判良いですね。

八島 昔はプロパーが少なかったでしょ。今は多いから。

田淵 多いですね、結構多いね。

八島 昔は、我々がプロパーと一緒に分会を回ってね、勧誘に回ったってすることができた時代やけども、今はとうてい、そんなのできひんからね。

田淵 だから今は教育会館のところで、全部で数十数名おると違うかな。がんばってやっていますわ。

梅崎 共済自体で・・・

八島 責任者が一緒に回るとかね。

門川 教職員共済の職員は今、20名ぐらいいま

すよ。ちょっと事務所が離れたところにもいますから。

八島 ああ、自動車の査定員入れたらね。

梅崎 共済は、非常に組合員にとっても人気が高いサービスですね。他産別も力を入れている。しかも組合活動には熱心じゃなくても、共済活動は需要が高いというのがあるのかなと。

《慰霊塔の管理》

梅崎 次に教育塔管理の継承について伺います。前回のときも慰霊塔のお話が出ていました。慰霊塔と教育塔は同じですね？

田淵 そうですね、はい。

梅崎 それで慰霊塔の問題があって、大教組が管理していたけど、まあ、こちらのほうが鍵を・・・

田淵 引き継ぐために教育塔の鍵を確保する必要があります。

梅崎 その、モノとかお金とかがあると、それをどのように・・・分裂した時のやりとりが非常に大変だと。現在も、その慰霊塔を中心とした活動というのは・・・

田淵 はい、毎年。10月の最終日曜かな、今は。これは昔はね、10月31日って、ずっと決まっていたんです。その10月31日がね、教育勅語の発布の日や、言うてね。ちょっと過激な人々からね、しょっちゅうビラ撒きに来はりますね。その慰霊式やってる最中に。あんた、その教育塔は、まあ言うたら教育勅語につながるような、けしからん。もっと違う時にせえとかね。

まあ、それはわかるけども、全国的に遺族が居てはって、31日がもう何曜日であろうと、子どもが慰霊塔に祀られてる日や、と知っている人がおるわけですね。それは多いです。それをね、

あえて変えて混乱することについての踏ん切りがなかなかつかなかったんです。

おかしいもので、何でころっと変わるか、言うたらね。日曜日以外にもうできなくなったんです。橋下さんらが出てきたら。

梅崎 はい、集まらない。

田淵 集まらない。全国的にもね、それぞれの県が付き添ってくるわけですよ。そうするとやっぱり用務はせないかん。それから人が少なくなってきている。その書記局における人間がね。こうやったら、やっぱりこれは日曜日に限定せないかんのと違うか、というようなことになって、10月、月末の日曜日に変更になって、今は31日というふうにとらわれないでね、やっています。これは全国から新しい遺族、教育等に合葬する人。それから前の遺族の人たちが来られてね。日教組が主催してやるんですけどね。だいたい文部省も、今は来てるのかな？

門川 今はもう、必ず、大きなお花はね、内閣総理大臣も、それから文部大臣も。それから各都道府県、全部花を、立派な花を出してくれる。まあ1対3万円ぐらいするやつ。これは全部出してくれる。たとえば神戸の震災の時には神戸市長もお見えになるし、2011年の東日本大震災にあたっては宮城県の大川小学校で死にましたね。これは特別合葬ということで、参加していただく。費用については日教組が出す。だから大変なんですよね。全国から1000人ほど集まりますから。

田淵 でもね、県によってはね。県で教育塔を持っておられるところがあるんですわ。

門川 ああ、持っているところありますね。沖縄はそうですね。

田淵 東北地方もそうですね、多いですね。それで、県でやってるからもういいです、と言われ

るところもあるし。それから門川さんが骨折ってやろうとしてできなかったのは、愛媛県の練習生がハワイ沖で亡くなったでしょ。あれは高校生ですからね。どうですか、というような働きかけをしたけども、向こうの知事からもう結構ですと。まあ、強制するものでもありませんからね。案内は差し上げて、ということになったんですけど。まあ、豊中で一番悲劇やったのは、あの御巢鷹山の事件ね。あれがあったでしょ。で、野畑小学校の児童一家が全滅したんですよ。子ども二人と両親。それで、かわいそうやし、というので、九州の方でしたけどね、親族に連絡して。ほなら、お願いします、いうてね。言わはったから入れましたけどね。ああいうのは、残念でしたね。そういうのは多かったですよ。震災なんかでもそういうのが多かったん違うかな。阪神淡路の時でも、子どもと同時に両親が亡くなってしまうとかね。

門川 学校が加害者の場合がありますと・・・

田淵 まあ、それがああるわな。

門川 これ、非常に、田淵さんが委員長で、私が書記長やったとき、堺の。

田淵 O-157。

門川 O-157ね。これは明らかに、学校が悪いです。何度も親に会いに行きましたね。

田淵 いや、だからね。

門川 いきません、と。

田淵 だからね、教育長が、堺の教育長が、はじめてのときやったか、お参りに来られたらね。もう遺族の人が周り囲んで離さないんですよ。責任取れ、責任取れ、言うてね。まあ、そんなこともありましたね。

門川 最終的には、おいでいただいて、その人らいてはりますからね。市長もその時、来はりました。まあ、もっといかなかったのは、あの池田の・・・。

田淵 ああ、あれね。

門川 これは田淵さんが卒業して、私が初めて委員長になった年ですが、池田小学校の殺害事件がありましたね。これも同じように何度も通いました。しかし、日教組と言ったら訳のわからん組織ですよ、一般の人から見たら。危険団体や何とか言われて。校長先生も教頭先生もすすめていただいたんですが、まあ、あれも学校の、児童安全の不備からの事件ですから、これもお願いにいきましたが、断られるというのがありました。それはやっぱりそういう意味では、子どもにまつわる事件ね。教師だけじゃありませんよ。大人が加害者になる場合もあるんですね。だからそういう意味で、あれは私も大阪教組も、日教組も非常に大事にしてる行事です。今でも、少なくなった、言うても全国から600人ぐらい来はるね。

田淵 僕も中に、何回か入りましたけど、木箱がありましてね。箱があって、その中に名前書いた木箱が県別に納められてるんやけど、あそこ聞いてどうぞ、言うたら、まあ、ぱーっと走って行って木箱開いてね。ふいて、ふいて、ね。大変でしたね、遺族もいらっしゃるしね。

門川 連合の会長もよく来ていただくんですよ。僕は、前田さんのときは来るもんやでとか言うたら、ああ、そうか、言うて。そんなんあるって知らなかった、みたいな。だから労働界のわかる人も来てくれはるし、もちろん政党には関わりなくね。自民党の先生も公明党の先生もね、来てくれはります。知事も、都合悪かったら副知事とかね。

《二つの賃金・労働条件闘争》

梅崎 次に府労連の賃金・労働条件闘争という

ものがあります。これはどういう活動になるんでしょうか。

田淵 これは大阪府の、いわゆる給料支払いを受けてる者ですね。ここが労働組合を作っているわけですよ。だから、府の職員。それから水道。それから教職員組合。それにもうひとつは職業安定所。これはもう今、国へ全部移管されましたけど、当時は国なんだけども、いわゆる監督権者が知事だったんですね。

そういう関係でね、国の方が給料少なくて、府の方が、給料が高いという関係があったときに、府の方が職業安定所に対してね、一定の助成金を出してた時代があるんです。もう今はまったく無くなりましたけどね。まあ、そういうこともあって、この今、言うた組合で、府労働組合連合会、大阪府職員労働組合ですね、連合会を作っていた。

それが分裂の時にね、今、申し上げた中でね、教職員組合も全教系が執行部ですから、この人たちがその中の役を占めている。それに当時の大阪府の自治労の職員の方は、全労連系がとってましたから、そこが執行部を取っていると。我々と親しいところと言えば、府従業員組合。これは、その当時は同盟の方に属しておられましたけどね、総評ではなくて。

それから水道。それから大職安という組織だったんです。その教組と自治労の方にその分裂が起きましたから、これをどうするかということになって、小島さんという委員長が、まず先に教組の私どもを認めると。参加を認めるとおっしゃったんですね。それに対して大教組の側の方が、けしからんと言うて。そしたら当然、自治労も小島さんは我が方を認めますから、そうすると自治労の全労連系が出るということになって、府労連は、私たちが入ったと同時に全労連系が抜けたんです。彼らは府労組連という組織を作ったんです。今、ふたつに分かれているんです。これはいわゆる賃金問題、労働条件問題。

春と、それから年末の2回の闘い、交渉があります。しかし当局が大変だと思うのは、2つの組

合と交渉せないかんわけですね。1回で済んだところを2回せないかん。どっちを先ですか、ということも問題になるわけです。当局は我が方と先にする、と。我が方で決まったこと以外、決して府労組連には、それ以外のことは出さないと、こういうような関係で続いていますね。

梅崎 前回少しお話いただきましたね。

田淵 はい、ちょっとしましたね。

梅崎 すごく幅広く、大阪府水連、水労や、職安も入っているという・・・

田淵 今はね、職安は抜けて、水労も名前が変わりましたね。それで抜けて、現在、府労連を作っているのは、大阪自治労の職員と、それから教組と、それから府の従業員組合。この3つが作ります。

《教育改革①：研修の事前協議の確立》

梅崎 次に、非常に大きなテーマだと思わすけど、教育改革の取り組みということで、①番から⑦番まで、いろいろな改革の具体例があがっています。第1番目からお話いただけますか。

田淵 できるだけ簡単に言います。大阪府教育委員会は、府、私たちは府の任命権者に属していますから、研修をやるわけですね。府が主催する研修があるわけです。その事前の、こういう内容で誰を講師にせえ、とか、もっと人権を分厚くせえとか、新しい在日朝鮮人問題が出てきているからこういうのも入れえとか、こういうことを事前に協議をしている。それで、「わかりました、やりましょう」というように、私たちはずっと主張してたんですが、大教組時代にはそれがきわめて不完全。ほとんどそういうことは成り立っていない。

従って、むしろ府から降りてきた段階で、豊中であれば豊中市の教育委員会と、この研修はあか

んやんか、と。もう少しこうせえ、ああせえとか言うてね。下でまたやりとりをせないかんというのがあって、事前協議をして協議の成立したものについては、私たちはボイコットをするとか何とかいうことはしないと。積極的に受けましょう、と、こういうスタンスです。そのことがなかなか府の皆さんには歴史的にわからないんです。府の研修なんていうのは、自分たちの、まあ言うたら職務・権限に属するものを、なぜ一介の労働組合にね、そんなものを事前に協議して了解を求めてやらないかんねん、と。これはまあ言うたら権限の問題やと、こう言うんです。だから、まあ言うたら管理権やと言うわけやな。そのことが不十分でしかなかったから、僕らはこのことにものすごく力を入れてやったんです。ほんまにわからん課長もいましたわ。田淵さん何を言うてんねんやろ、というような人もいました。そやけど、本当に長いやりとりをしてね、できるところからそれをやりました。そしたらやっぱりスムーズですよ。それなりにね。

しかし、例えば指導要領が変わっていくでしょ。ほなら伝達講習会ってやるんですね。府が文部省で聞いてきたことを豊能地域でね、今度の指導要領はこれが変わりますとか、こうやるんですね。まあそれは説明せないかんから説明してもええのやけども、一方的に聞いて終わりではあかんぞ、と。言うた後で必ず質問時間取れよとか。これはどういうことや、とか、これはどういうことや、とか。よう答えんかったらよう答えんで、文部省へ聞いてこいと。こういうやりとりができるようになるのに相当かかりました。そういう体制を作ろうということで、まあいろいろと苦労しました。

《教育改革②：学校五日制の取り組み》

田淵 それから学校五日制の取り組み。これはね、学校五日制がもう始まるというのでね。最初はあれ、何やったかな、月2回とかね。それから取れないからどっかへ分散するとか何かややこしい時代がありましたね。これはまあ国の流れがあ

りましたから、それを教育委員会とできるだけスムーズに学校五日制に移行させていくためにどうすべきかというような協議をずっとやりました。ここで別に対立云々ということはそう無かったですね。

梅崎 カリキュラムとか授業とかをどう組み直すのかというのは出てきますよね。

田淵 出てきます。それはもう組合でやってもしょうがないので、やっぱり学校現場でそういうものについてはやってもらわないかんから、そういうことをやることも条件にしたりね。いろいろやりました。しかし僕らとしては、もっと明確にね、きちっと休めるようにせえや、と。何か中途半端なまとめ取りやとか何かやって、そんなもんあんまり休養にもならんやんか、とか。言いたいことは言いますわな。隔週なら隔週できちっとやれとかね。早く完全週休二日制にせえとか。だけどそんなにもめる話ではなかったです。

《教育改革③：大阪府外国人研究協議会の設立》

田淵 それからね、3つめのやつはね。これは僕たちが少数派の時に強く言っておったのは、大阪府下には在日外国人、特に在日コリアンの方が大変多い。それから当時はニューカマー、何ちゅうの、ベトナムから、難民か、今で言うね。

梅崎 外国人労働者として入っている？

田淵 労働者じゃない。あれはベトナムからね。ベトナム内戦の後、船でね。

梅崎 ああ、ありましたね。

田淵 そういう人たちがやってくるわけですよ。そういう人たちが何ヶ月間か、どこか定住の地域で学習した後、それぞれ地域に入ってくるわけね。そういう人たちはね、やっぱりどういうところに来るかと言うたらね、在日外国人の多いとこ

に入ってくるんです。そらそうですよ。生活程度がね。まあ言うたら高級住宅地に来ないんですよ。だから鶴橋とか、それから八尾も多かったですね。そういう子どもたちに対してね。在日朝鮮人の場合は、日本の学校に通ってる子と、それから民族学校へ行っている子がいる。民族学校も、総連系と民団系とありましてね。

そこへ行ってる人たちは自分たちの意思で行って、日本語の教育も受けているけれども、民族の教育も受けているわけですね。しかし圧倒的に多くは、その日本の学校に来ているわけです。その子どもたちは、まあ言うたら日本で生まれてる子がほとんどですから、自分が韓国人である、朝鮮人であるという意識を持っているのは、まあ少ない。親が必死でそのことを伝えている人もありますけどね。なかなかそういかない。

むしろその子どもたちは差別の対象にされて育ってきているわけですね。朝鮮人、朝鮮人とかいうような格好でね。したがって僕らとしては、あの子どもたちの民族性というものをね、どう取り戻すんだ、と。

だから普通の授業のときにはそのことはできないけれども、放課後にそういう子どもたちだけ集めてね。そしてそこへは民族講師言うてね、資格を持った講師の先生を配置して、そして放課後、週の何回かはその子どもたちに民族の言葉やとか文化やとかいうようなものを教えるという必要性があるんじゃないか、と。だから地域によっては、そういう毎週できない場合には夏休みに限って1週間ほどね、何とか言うて、キャンプをしてね。そこで子どもたちに民族性の問題を教えていくとか。こういう様々な取り組みを府下でずっと広がっていくんですよ。そのためには、どういう方法で広めていったらいいか、教えていったらいいかということをやっぱり研究せないかんと。そのためには大阪府下を統一する府立の外国人教育研究協議会を作れと。こういう要求をずっとしてきたんです。

しかし当時の大教組は、前もちょっと言いましたけども、そんな運動をあんまり彼らは重要視し

ないんです。彼らは、日本人がそんな外国人に、外国の民族を教えられるかいという感じでした。やっぱり民族学校へ送ったらいいんだというのが彼らの主流なんです。建前はそうですよ。民族学校があって、安いお金で通えて、そういうことがちゃんとできるんやったら送る親ももっと多いでしょう。日本の教育を受けさせる親もおるでしょう。

しかし、そういうことはあるんだけど、地域でやっていること、それからまた特別にたくさんのお子がおる学校でやっていることについて、いろんな試行錯誤してるんだから、我々が再建したときにこの協議会を作れということを強く申し出た。比較的早く、何年やったかな、こないだ何周年かやったんやけどね。やっぱり費用も要りますから、人の配置も要りますから。

梅崎 今、田淵さんがおっしゃっている教育は、今、よく言われている多文化教育ですか？民族学校に行ったらその自国の文化だけだけど、そうではなくて多文化共生としての多文化教育ですか？

田淵 まあ、だけど多文化というと日本のお子もたちにも、そういう多文化という概念で行くでしょう？

梅崎 ああ、そうではない。

田淵 そうではないね。しかし、この子たちは、本当はその文化を持って育ってきている民族の子なんだけども、それが無いから。アイデンティティをどう自覚させるかということも大事ではないかと。いらんという親はいますよ。放つといってくれという人もおります。

門川 だから、あくまで在日外国人教育研究会。まあ、国籍は日本に戻ったとしてもね、生まれは韓国であるとか、ベトナムであるとか。その子たちの教育。

多文化共生と言うたら、我々、まあ大和の人間とか、日本人が多文化を学ぶ。それは多文化共生で、我々は力を入れています。言うてる府外教とは、まあ連なるものではありませんけれども、一応。

田淵 うん、決して敵対するものではないですね。朝鮮・韓国の子が多いんだけど、やっぱりそれだけではないので。さっきいったフィリピンもおればベトナムもおれば、ということで、在日外国人教育研究協議会。それが大阪にできたら各地域にできるんです。豊中市外国人教育研究協議会、門真市、守口市でできあがっているんです。いろんな交流会をやってます。

《教育改革④：夜間中学の条件整備と増設》

田淵 次のところに行きますかね。夜間中学があつてね。大阪にはね、今、何校あるんかな、門川さん。

門川 11校からね、東大阪が、2校がひとつになりましたから、今、10校と違いますか。

田淵 1つになってないね、あれ。もめてんねん。大阪はそれだけ夜間中学校があるんです。豊中にもあるんです。門川さんとこの守口にもあるんですけどね。大阪市内には結構多いのかな。大阪市が4つ。それから岸和田、東大阪、堺。あちこちにもっと作ろうとかいう運動があつたんですけど、今、そんだけあるんですね。

ここに来る人たちというのは、基本的には日本の人で、小学校、中学校を事情があつて行けなかった人たちですね。正しく字を書けない、読めない。こういう方々がやっぱりいるんです。この方々に、夜ね、来ていただいて、学んでもらうということなんです。そこには今、言うたベトナムの子が来ます。日本語を教えてもらいたいがためにやってきます。フィリピンの人が来ます。韓国のおばあちゃんは来るね。いろんな人が来ます。それだけニーズが多かつたんです。

大阪府は全国で一番ですよ、力入れてる大阪です。しかしながら、いろんな問題が出てくるんです。何でか言うたらね、何年間教えるんや、と。この人、一切、6年、9年間義務制行ってないから、9年間保障せよ、とか。この人は小学校まで終わってるんやから3年間でええとか、そんな議論が行政から来るんですよ。やっぱり行政も人の配置の問題がありますからね。そういう問題がある。しかし、仮にそれなら6年にしていったらね、6年でまだ覚えられん、字がちゃんとできない子をどうすんねん、と。何年間まで猶予を認めえ、とかね。それから晩に来はるから、給食費をどうすんねんとか。それから通学してきはるときのお金をどうすんねんとか。

それから豊中なんかもそうなんですけど、できた当時は川西からも、それから尼崎からも来はるんですよ。そしたらもう当局は、府外はいかんとかね。府の予算を使ってるんだから、余所は余所で作ってもらえ、とか。いろいろなことが起きるんですけれどね。

それにやっぱり対応するということで。この夜間中学の生徒さん、大人ですからね。自分たちで組織作ってね、教育委員会と交渉するし、我々もそれを支援する。それから増設で豊中ができたりして、最後にできたのが東大阪の二つ目やね。最後やと思う。

今、東大阪で何が起きているか言うたら、子どもの数が減ってきて、学校の数が減ってきて統廃合が起きるんですよ。Aという夜間中学とBという夜間中学があるんですけど、それが統廃合したら1校になりますわな。それがけしからんで、もめてるんですよ。残せと、いや、それはやっぱり統廃合やからしゃあないと、もめているんですけどね。しかし、幸いなことに、今、文部省がちょっと力を入れ始めましたね。馳か。

門川 あの人はものすごい乗り気やね。

田淵 馳が、守口夜中に、文部大臣になって来たりしてね。全国調査すると、やっぱり字が読め

ない、書けない人たちが相当いるということがわかったんやね。それはやっぱり再教育せないかんのと違うかということで、ちょっと陽の目を見えますよ。がんばってきた夜間中学校の教師、OBたちもものすごく張り切ってます、今。何周年迎えると言うたかな、ちょっと忘れましたがね。やろう言うてね。

梅崎 夜間中学というのは、通う場合には、週5日通うんですか？

田淵 そうです、そうです。

梅崎 仕事終わりに行く人もいるし、まあ、仕事を引退されている方は普通に。

田淵 はい。だから最初、まあ、例えば50人ほど、最初、行きますと言うてるけどね、やっぱり事情があって来れなくなって30になってしまうとかね。20になってしまうと、また教育委員会はそこに目つけてね、減ってるからもっとこれ縮小規模にせえ、とか、いろいろ出てくるんですけどね。やっぱり来れない人も好きで来てないんじゃないんやね。来れない事情があって来てない人が多いんですよ。そこのとこまで目を向けないかんのと違うかとかね、言うてるけど。

梅崎 あと、簡単に統廃合してしまうと、自分の勤務地からあまりにも遠くなってしまふ。だから通えなくなっちゃうという問題が出てきますね。

田淵 だからその人たちの作文を読んだら感動ですよ。字が書けるようになった、読めるようになった。もう一切電車乗らなかつたとか、読めないから。知ってるところしか行かなかつたけどね、読めるようになったら電車に自分一人で乗れるとかね。そういうことを感動的に文章に書いてはりますね。

門川 私も夜間中学に3年間勤めてたんですが、

定期券を買うときにね、おばあちゃんは包帯をするんです。それで駅へ行って、「私は今、手を怪我してるんで字が書けません」実はもともと書けないんです。書けませんと言えないので、そのときに包帯します、と。

田淵 まあ、そういう運動も力を入れたということですね。

八島 今も、夜間学級って我々は言うてるけどもね、文部省的に言うたら夜間中学じゃなくて夜間学級。学校にはなかなかなれへん。

田淵 だから今、その11校の学校に行かれたらね、本当にカタカナでね、来て下さい、と書いてある。ずっと通ったらすぐわかるように、ここは夜間学級があります。それから朝鮮語で書いてるところもあるし、ベトナム語で書いたりしてるところもありますしね。この学校は夜間学級があるねんな、と。2回も3回も学校の周りを回ってね。どうしよう、どうしよう、行きたいけど、どうしよう、いうてね、やっと来ました、とかね。涙の出る話、いっぱい聞かされますわ。

梅崎 本来、義務教育という教育なんだけれども、それが何らかの理由で受けられなかった方々がおられる。もう一度勉強しようという気持ちは全員あると思うんですけど、なかなか扉をたたきにくいとか、恥ずかしいとか、そういうのはあると思うんですね。でも今は11校で10校になるかもしれないと。

田淵 なっているんです。まあ、小学校の卒業証はもらってるけど、形式的にもらってるだけでそんな勉強していません、という人もおるわけで。それをするのは行政の配慮にかかるんですね。一応行ってるやないか、ということですね。いろんな問題が出てきますわ。

門川 夜間中学ができることによって、その他

の学校の地域の教師は変わりますね。だから教師の、豊中でも守口でも大阪市でもそうなんですよ。新任教員は必ず夜間中学に2日か3日、授業見学に行かすんですよ。新任研修としてね。だいたい学校の教師なんて、ほぼ恵まれた人生歩んできたやつですよ。そういう意味では、夜間中学があるということの意味は非常に大きい。

田淵 大阪連合ができて2年目か3年目ぐらいに、石原会長の時にね、守口夜間の見学会にみんな行っていただきました。ああ、こんなんあるんか、言うてね、初めて認識しててね。

門川 すごいなと言うてはりました。

八島 昼間の中学校の生徒をね、夜間中学のほうへ行って、おばあちゃん、おじいちゃんの話聞く機会を作ったりね。だからとにかく昼間の教室は静かにせんかい、と言わないかんけども、夜間中学はもうしーんとして、いつまでも静かに勉強するからね。そういう姿を見たらね、みんなびっくりしよる。

田淵 だから認可が取れないところはね、自主夜間というような格好でね。自主夜間中学校という格好で、いろんなところで運動が、全国で起きてると違いますか。

《教育改革⑤：高校改革》

梅崎 次に書かれているのは、高校改革です。

田淵 高校はね、何か次々と課題があって、何や僕もあんまりようわからん。今でも大変やね、高校の問題は。僕らのころはね、とにかく学区をね、小学区にせえ、と。小学区でわかります？

門川 9つぐらいにわけてたんですわ。

田淵 中学区やったのを小学区にせえ、と。学区をもっと小さく。今は全学区になってしまった

でしょ、大阪府。

門川 大阪府はもう今、どこでも受けられる。

田淵 もう1つですよ。こんなことになってしまった。前は中学区やった。僕らの時は。それを小学区にせえと。だから豊中やったら豊中の子どもたちが通える学校をいくつかにせえと。守口やったら守口で、というふうにせえと。だから小中高の一貫教育みたいな、地域教育みたいなことをせえ、と言うてきた。やっぱりなかなか難しかったですね。

梅崎 小学区に一度なったのは何年ぐらい？

田淵 ならない。1回も無い。

梅崎 そういうことを言っていたと。

田淵 運動もしたし、それから学校教育審議会もその答申を出しました。大阪府が。しましたけども、議会では反対。何でや言うたら、選べる権利をどうするねん、と。よくできる親はそうですよ。まあ言うたらいかんけども大阪でも、この地域ごとにね、数があるだけランクがあるんですよ。100校あれば100個ランクがあるんやね。そうしたら自分の地域は1番目のところは目指せないのはおかしいと。こういう意見です。まあ、強い抵抗がありましたね。小学区制についての説明会とか、僕らもやりましたけどね、すごい抵抗やったね。やっぱり、よくできる親は。

梅崎 その親っていうのは、父母会。

田淵 地域の親。集まってもらって説明会するんですけどね。最後はやっぱり大学区制。1県全部でしょ、今、大阪。

梅崎 そうすると、嫌な言い方ですけど、一人勝ちの高校が出てくるわけですね。

田淵 できますよ。それは出てきます。

梅崎 府内から受験ができるわけですから、勉強ができる子だけをぎゅっと集めるところが出てきて。そうするとやっぱり地域の格差っていうんですか？

田淵 ああ、でますよ。

梅崎 当然出ますよね。

田淵 僕らはそのアンチテーゼでね、やって、これはもう負けたというか終わってしまったんですけど、地元集中校運動というのをやったんです。豊中やったら当時は北野とか、それから豊高とか茨高とか受けれるわけですよ。そうじゃなくて、豊中にある学校が3つか4つあったら、豊中の地域を割って、僕の住んでいる地域はこの学校に集中せえと進路指導をするわけですよ。それを猛烈にやったのが高槻とか枚方。それから門真もやったかな。しかし、逆にまた猛烈な反対も受けてね、つぶされてしまったんですね。

梅崎 高校の場合、私立高校もあるわけじゃないですか。そうすると学区が小さくなると、たとえば北野が、若干偏差値が下がってきたらじゃあ偏差値を上げるためには、やっぱりもっと広く集めたいなという、私立に逃げられないようにしたいな。北野の先生からすればですよ。私立高校のほうが上がってきて、公立高校が下がってきたら、それは学区を広げればいいじゃないかという教員側の、ね。

田淵 それはまあ、あるでしょう。

梅崎 意見も出てきますよね。

田淵 そやけどね、僕は高校の教師じゃないからわからんけどね、すごく進路指導がしにくくなりますよ。40人の子どもがおってね、内申書や

とか実力テストも含めて、あるでしょう。だいたいその地域が小さく分かれていて、この辺のレベルやったらここやな、ここやな、いうて指導ができるけど、あんなもん全部になってしまっただけ。仮に北野に行きたい、言うたってね、北野の、お前、能力無いよと言うたって、行きます、言うたら行かさないやあないでしょう。落ちてくるでしょう。どないすんねん、て。そこまで心配するわな、教師は。

それはもう今は府教委が、ころころ文部省のテストまで使うてやると言うて、また反対になって困ってますわ。明日、明後日、試験があるんやね、実力テストいうやつが。それを参考にすらしい。だから進路の指導の仕方がころころ変わってね。子どももかわいそうやし、親もかわいそうやし、教師も泣いてますわ。これ、どないすんねん、言うてね。だけど、大阪全体にしたけども、すべてではないけど、それぞれの地域に固まっているというデータは出てますよ。しかし、一番行きたいところに行ってるやつもおりますよ、それは。

門川 東京とかね、京都とか、兵庫と大阪の違いは何かと言ったら、ナンバーワンスクールは、大阪は公立なんです。神戸やったら灘。灘とかもうひとつ、新しい学校、進学校ができてますね。半分ぐらいの人が東大に行ける。京都も私学でナンバーワンスクールがある。奈良もナンバーワンスクールが東大寺学園ですね。神奈川とか東京なんかは、東京はちょっと盛り返しましたけどもね、みんな私学なんですよ。

大阪はナンバーワンスクールがね、まあ、北野、天王寺、生野、四條畷、茨木とか、公立学校なんです。この辺の違いは何かというね。まあちょっと、私は筋が外れた言い方をするかわからないけれども、大学区制ではなくて中学区制。9つに大阪府下を割って、その1つずつぐらいにナンバーワンスクールがあるんですよ。これ、8つぐらいの中から選ぶんです。今、大学区制ですとね、もうむちゃくちゃですわ。もうそんな、南の果てから北野なんか通えない。その意味がないわけです。

わ。100なんぼあるやつをナンバーワンからナンバー112までランク分けするということは、あまりにもむちゃくちゃなんですわ。

私どもがやった地元集中運動なんか、まあその当時はそれが一番望ましいというふうにしてたんですが、今から考えるとやっぱり中学区制というのかな。それはもう中学を卒業して、自分が将来、どういう生き方をするかということの選択を自らする時代ですからね。やっぱり選択の余地は子どもたちにまかす必要がある。

ただし橋下さんとかそこらが言い出した、どこでも受けられます、なんていうことにしたらね、もうめっちゃくちゃになりますわ。子ども同士のつながりもまったく無くなりますからね。だから、私も田淵さんも、みんな今は大阪教組、ここに来てるもの、それで義務制の教員だったんですがね、高校の教師は本当に苦労してますわ。

高校の組合員が多いのは、定時制とかね、困難校の教師が多いです。高等学校で一番楽な教師はどこかって言ったら、エリート校の教師です。もう、放っておいても勉強する。それでいい授業をしなかったら、子どもは勝手に先生の話を受けないで塾の勉強が終わるまで机の上でおとなしくしてくれますから。うちの組合員はあえてやっぱりしんどい学校でがんばってます。

田淵 まあ、こればかりではできませんので最後にしときますが、今、大きな学区制になってね、順番ができるでしょう。ここの下の方のところ、2年間定数割れやったら廃止なんですわ。学校、潰しよる。橋下さんはね。だから今年も池田北高とか、なんとか高がもう廃止ですわ。もうだから1年生は入れない。2年後にはもう廃校。それは、そうなりますよ。底辺の子がおってもなかなか集まりにくいですよ。それは、そういうね、何ちゅうか、彼が言う教育のマネジメントなのかな。勝つ者は上がったらええ、あかんところは淘汰されたらええ、と。こういうことですよ。

《教育改革⑥：府財政危機突破の諸取組み—賃金・定数》

梅崎 次に、財政危機は・・・

田淵 これはもうね。大阪府の財政が大変ね、今もそうですけども、収入が入ってこない。これはもう経済構造からいろんなことが原因してるんでしょうけどね。大阪が沈下しているのが大きな理由でしょうけども。大きな会社がみんな東京の方へ移転してしまう。そうすると税収が入ってこない。そうなると、まずどうするか言うたら、人件費に目をつけるわけですね。

この時はノックさんの時代でした。横山ノックさん。これが教師の、府労連に提案してきたのがね、賃金カットをやるんですね。賃金カットと同時に定数の削減です。先ほど言いました同和加配とかね。同和教育を進めるためにおった加配の教職員をがっつと減らすとかね。それから女子率加配と言うてね。女子率が大変高いところにね、産休や育休やいろんなことが起きますから、加配の教員を置いたりしてたんですけど、そういうものも無くするとかね。そういう形で賃金と定数を減らすというね、提案が出てきてね。まあ、いろいろやりましたけども、まあ最終的にはやられますけどね。

でもまあ頭にきていたのはね、府の財政が悪くなったというのはわかる。しかしね、そんな、わかっていることを含めて府の府会議員やら理事者が予算組んで、毎年毎年予算組んで赤字出しながらもやっつとるわけやね。その責任はどうすんねん、と。わかってたはずやろ、と。なら、それに見合う予算組んでやればええやないか。それはお構いなしやと。理事者もお構いなしやと。結果、こんだけ悪いからお前ら、責任取れ、と。これはちょっとおかしいんちゃうの、と。せいぜい知事が何割カットするぐらいですやん。この頃、府会議員も減らされてるみたいやけどね。それ、減らすのも減らすんやけど、やっぱりなぜそうなったか、と。その責任はどこにあるねん、ということをはっきりしてくれや、と。そんなもん、結果が

悪くなったからお前とこ、こうや、と言われたってね、そんなバカなことあるか、言うて。一生懸命集会したり、言い合いしたりしましたけどね。

やっぱりそれは向こうが強いですわな。だけど橋下さんの時よりはちょっとまだマシでしたよ。橋下さんになってからはもっとやられてるからね。それはもう、前も言った大阪で教員が他府県へ逃げるのもそれですわ。新人採用の募集するでしょ。そしたら、昔やったら6倍ぐらい来てたのが、今、2倍とか3倍になってしまうでしょ。今度、勤めてみたけど給料安いからもうやっつてられるか、と。がんがんやられて、そんならもう1回受け直して兵庫行きますわ、京都行きますわ。これですわ、今。特に大阪市内。大阪市内なんてね、2倍ぐらいですわ。受かった者、半分逃げますからね、やっぱり。つまり、全部通るということはね。どんな人がおるか。言うたらいかんけど。それで大阪市の教育やれ、言うんやからね。これは大変ですよ、ほんまに。

梅崎 普通の会社で言えば誰も受けてくれないから良い人材が採れない。

田淵 そうそう、そういうことですよ。この偉そうに言うて、民間人校長言うて入れはったでしょ。今度、1人でしょ、結果。今年の大阪市の民間人校長は一人です。市教委で幹部しとった人が民間人校長になった。最初、20名か30名かとしてね。あんなことして、まあ、ようやるわと思ったけど、そんなことですわ。

それからやっぱりね、ええか悪いかは別にしてね、教頭さんたちの意欲、無くなりますよ。せつかくがんばって辛抱して、教頭までなってね。もうすぐ校長になろうか思うたら、もういらんっちゅうわけでしょ。民間人、50人いたら30人ぼーんと校長としてしもうたら、20人しかとらへんということは、なられへん。それはあんだ、やる気無くしますよ。だから大阪府の、大阪市内の校長さんは辞めた後、おれへんから、おれへんときはどないするかいうたら校長さんのOBが再任用

ですよ。給料半分ぐらいになって。そんなことがおきとるんやからね。

《教育改革⑦：「教え子を再び戦場に送るな」・「平和・人権・共生の教育を創造しよう」のスローガンの下、大阪教組教研の確立》

梅崎 あと最後に、「教え子を再び戦場に送るな」とか、「平和・人権・共生の教育を創造しよう」と。

田淵 これは、私たちが執行部ともやって、やっぱり教え子を再び戦場に送るなというのは日教組のメインスローガンです。それに加えて大阪ではね、平和。特に人権・共生。平和はまあ一般的なものですけど、人権とか共生の教育。先ほどから言っているように、夜間中学とか外国人の問題とか。こういうことをやっぱり創造しようや、ということでごんばってきたということです。これは私たちの、結集したときの最大の実践の結果として、たくさんの方が結集してくれましたし、今も生きています。

梅崎 卒業式での日の丸・君が代の強制的反対の取り組み。それから日教組のところで、「反対・阻止・粉碎」から「参加・提案・改革」への方針という、これは一連のお話だと思うんですけど。

田淵 日の丸・君が代のやつはね、これはご案内のとおり、法制化される前の取り組みですけども、だんだん、だんだん圧力がかかってくるわけですね。日の丸を揚げえ、とか、君が代を歌え、とかね。そういうことについて、じゃあ日の丸はどこに国歌国旗と書いてあるねん、と。なぜそれを強制せいかんねんと言うたら、いや、これは慣習法やとか何か、やり合うわけですよ。そういう中で、強制には反対ということで取り組んできましたけども、最終的には法制化された次元では、それに対して物理的な抵抗は無いですね。できないですね。たまにおるんですよ、そういう人が。組合員でない人で物理的抵抗をしてね。日の丸を

持って逃げたとかね。やる人もおるんですけどね。そのせいを我々のせいにするからね、そこまで日の丸君が代が大事なら「ぬすまれた」と警察へ訴えと、言うねん、校長に。

《日教組のネガティブイメージの誤解》

田淵 民間の方も今日もいらっしゃると思えますけど、何かそういう抵抗運動ばかりやってる日教組という印象を与えてるかもしれません。

私たちは自民党を中心とするやっぱり教育施策、どっちかと言えば管理とか、そういうことが強くて反対せざるを得ない面が多く出てくるのです。ただ、僕ら思ってる以上に日教組を悪者にするのはなんでやろう、と思うんやけどね。そんな悪いやつ違うのになと僕は思うんやけどね。僕らは子どもの側に立って頑張っているのに、それをあえてね、悪く強調するでしょ。まあ、どっちにしても主任制があれば主任制反対闘争するし、いろんな阻止闘争はやってきました。もう犬猿の仲みたいになってきたけども、やっぱり中には、文部省の中にもね、これではあかんと違うかと。日教組の中でも、これではあかんと違うかと。やっぱり違いは違いがあると。しかし、ちゃんとお互いに理解しあえて、やれることがやれるんじゃないかとかね。

たとえば五日制とかそうですよ。そんなに別に抵抗しあう話でもないしね。どうスムーズにするか。今でこそちょっと遅いけど、夜間中学の問題なんかでもその頃から言っているんだけど、別に喧嘩する話でもないんですね。だから、阻止闘争をしたり反対闘争をすることもあっても、やっぱり文部省と協議して、やれるものはやっていこうじゃないかということで、中教審の中に入れていくようになるんです。当時の委員長が。今はちょっと排除されてますけどね。民主党政権前からですよ。委員として入って、そこで議論していく。本部からの提案があって、いろいろと激論がありました。大阪なんかもね、よく考えてみれば、さっきの事前協議の問題なんかは参加提言・改革なんですよ。研修反対！阻止！とか言っ

ていない。やるんならええものをやれや、と。こういうふうにしようや、ということをやっているんで、別に僕らに違和感は無かった。大いにやろうというので大阪なんかもシンポジウムやったりしてね。

だから急進的な左派と言われる連中からすると、大阪は右派やというレッテルを貼ったりされましたけどね。そんなもん、全然かまへん、と。むしろ、ある県なんかでも一生懸命反対闘争ばかりやらはるんやけど、中では、そんなもん全然違う、手、つないだ協議やってますよ。それは表には出してはいませんが。上手な県も多くありました。そんな、いつもいつも喧嘩してるわけにはいかんですよ。

知事与党勢力になると、そんな、喧嘩ばかりしとるわけにいかんですよ。しかし、それがまた逆になると、喧嘩もせないかんことが増えることは事実ですね。向こうも挑発するし、弾圧してくるからね。大阪なんかはもう弾圧以前に粉碎されそうになってるからね、橋下に。これは悔しいんですけどね。だからそういう点で、日教組が言うてきて、いろんな議論がありましたけども、今は、日教組は少なくとも路線としては参加・提言・改革の路線の旗を降ろしてないと思っています。

《連合大阪の運動への参加》

田淵 連合運動の大阪の参加の問題ですけどね。僕らがちょっと良かったのは、ちょうど僕らのところが再建すると、直後に連合大阪が発足しましたから、一緒にスタートラインに入れてもらえたんです。あれ、できあがっている連合大阪やったらね、また違ったことがあったかもしれんけど、同じように連合大阪が12月の20何日か、89年のね。私たちの再建大会、直後に連合大阪の結成大会に入れてもらいましたから、そういう点ではスムーズと一緒に労働組合として入らせていただいた。

今、連合は、ご案内の通り、旧総評、旧同盟、旧の新産別とかいう労働団体が一緒になったわけで、それぞれ歴史と伝統がありますわね。我々大阪の場合、僕ら総評のグループでしたから、連合

ができたからといって、連合にすべての運動を吸収できるかという、なかなかできないんじゃないか。僕は当時、そこへ参加したわけじゃありませんけども、特に平和闘争の問題、それから部落解放の問題。これはもう途中で解放共闘に連合も入りましたから、解消されています。

それから障害者団体について、別に連合と云々ということは無いですね。それから日韓国朝鮮人の人たちの問題も別に連合の中で何とかいうことはない。大きいのは、平和の課題と、それから原発の課題がありますね。未だに、それはあります。

従って、そういう課題については、別にできるだけ早く連合と一緒にやれるようにしたいけれども、当面、独自でやらざるを得ない。今、大阪平和人権センターというのがあって、もう20数年経ちますけども、連合の中で一緒に全部やれるとは、残念ながらなっていない。だからそれは残して、僕もその理事長、もう10何年やらしていただいているんです。できるだけ早くそういう時代になってほしいなと思います。原発の問題も。そやからそういうことなんです。中には部落解放問題には共闘会議ができて、連合も入られて、それなりに活動していただいていると、今、思います。

それから、連合が上海市の総工会とのつながりを作られた中で、産別の交流もやろうということで、うちは上海市教育工会と。僕ら、連合ができる前から、総評時代から改めてそういう提起ができて上海市教育工会とはつきあいをさせていただいている。

繰り返しになりますが、なかなか難しいんでしょうけども、同じ連合として一緒になった以上はですね、いろんな課題がありながらもね、違いを認め合うようなこととしてやっぱり運動を進めていけるように、一刻も早くになっていただきたいという思いはあります。

昔は選挙まで違ってましたわね。旧総評は社会党で、同盟は民社党とかいうようになって、その選挙についてはね、まあ、そういうことが無くなって一緒にやれるということなんです、今、当面

しているような課題、言えば、民主党がどんな色をして何してはるのか、ようわからん、というやつがあるんですね。たとえば今の安倍政権の支持率は、40数%でやっぱり上位におりますね。支持率が反対よりも多いですね。しかし中身、見てみたらね、どんなことになっているか言うたら、安倍さんが好きやからというのが13%ぐらいかな。それから安倍政権に期待する、というのが17%ぐらいかな。30%ぐらいですわ。圧倒的に多いのが何やと言うたら、安倍さん以外に入れる人がおれへんから、というのが33%ぐらいあると思うんですね。それからまた、安保法案にしてもね、反対の方が多くて賛成が少ない。それから辺野古の埋め立てについても、反対が多くて賛成が少ない。原発の再稼働についてもそうなんですわ。アベノミクスにいたってもですね、自分ところに恩恵が来てないというのが圧倒的で、来てるというのはほんの少数というね。

だからそういう時代の時に、連合もいろんな団体っちゅうか、考えがありますから、一概に言い切れませんが、そのような状況でどう民主党ががんばるかのために、旗をしっかりと立ててね、どう一致してやるかということ早期にやっていたかかないと。これからの参議院選挙でね、僕はもうほんまに惨憺たるものになってしまうのではないかなと、大阪では、という気がしてなりません。だからそうならんように、どうか折り合っていくことをしてもらいたいな、ちょっと余分ですけども、今日的課題としては思います。

《沖縄問題を考える取り組み》

田淵 それから、沖縄と私たちとの関係はね、前も申し上げましたけども、まだ、復帰前から私たちは沖縄へ交流に行っていました。僕も1970年に初めてパスポートを持って行きましたけども、それ以降、ずっと行っているんです。大阪が、大教組が全教系にとられた後は、前も言いましたけども、県同士の交流ができなくなりましたので、私どもは沖縄市を中心とした地域と交流を重ねてきました。再建するまでずっとやってきたんです

けども、再建後は、現職の人たちは5月の平和行進の時に、毎年100人ぐらい青年部を中心に送ってますね。そこで2泊3日。金曜日の授業が終わって行って、夜に行って、土曜日は歩いて、日曜日はいろんな地域の戦跡巡りして、夜帰ってくるというね、大変ハードですけども。若い人たちは、こういう沖縄は初めてやと。観光では来たけども、そういうことを知らなかった、とか言うてね。それはずっと続いていますわ。退職者も平和行進の時には何人か行くようにしてる。

それから門川さんがやってくれている「憲法9条を誇りにする会」というのがあるんですけどね。これは退職者の組織です。これは退職者の男と女が一緒になって作ってる組織。ここがいろんなフィールドワークをやってるんです。特に沖縄には2年間のうち1回は行くと。これで10何回目かな。去年は福島行ったかな。それからその前は沖縄へ行って、その前には祝島。岩国の原発の祝島ですね。今年になりましたけど、6月の22日から23日を含めて3泊4日でまた沖縄へ、今度は門川さんの肝いりで80人ぐらい連れて行くと言うから、80人と言うたら修学旅行並みで、大人の修学旅行どないすんのかな。バス3台ぐらい要るし、泊まる場所、飯食うところから大変。だけど今、昨日、一昨日か聞いたら80名ぐらいの人が行きたいという気持ちを持っているようですから、できるだけそういう人たち、何回か来るリピーターの人も多いんですけども、できるだけ若い人にね、来てもらって。

そのためには今、この来週か？宜野湾市長選挙。24かな、開票でしょ。あの宜野湾の市長は私たちとは違う立場の人ですね。石垣の市長と、それから宮古の市長と。まあ、そういう人たちがおるんですけど、まあ、私たちは沖縄と連帯をしながら。僕なんかでももう76歳ですし、門川さんかてそれに近いんやから、もうちょっとやっぱり若い人たちが後を継いでもらうようにせないかんといい思いでやっています。

《阪神淡路大震災への取り組み》

田淵 それから阪神淡路大震災の取り組みは、大阪でも豊中なんかでも、庄内地域が相当やられて、学校で避難をやりましたから、その受け入れとか、それから連合と一緒に、支援活動に取り組みました。1つ報告しておきたいのはコクヨ労働組合ありますが、ここと連携して、大阪府域で被災をして、学用品が無くなった、不足したという子どもたちに、それを送ったりしました。コクヨもだいぶ安くしてくれましたね。半額ぐらいにしてくれたんかな。一緒に、そういう取り組みやったりしました。

《日本民主教育政治連盟》

田淵 それから日政連というのはね、日本民主教育政治連盟という日教組の政治連盟なんです。これは国会議員、それから府県会市町村議員がおります。今、課題は大阪で言えば、府会議員が残念ながらゼロですね。民主党議員そのものが少ない。森みどりという女性の日政連議員が前の府会議員選挙で負けました。大阪市会では山本しゅう子という日政連議員がいましたけども、これも負けました。それともう1人、大阪市の小林市会議員も負けました。現在、日政連議員として、それからもうひとつは枚方の竹内市長。日政連だったんですけども、これもこの間の選挙で負けました。

今ですね、豊中の市会議員で1人、吹田の市会議員で2人、高槻の市会議員で1人、摂津の市会議員で1人、枚方の市会議員で1人、八尾の市会議員で1人、それから南が富田林や。富田林の市会議員で1人。市会議員としてはこれだけ日政連議員がいます。

とりわけ身近な話で申し上げるとね、なぜ僕らは、豊中で日政連議員をがんばって作ったかと言うとね。議会の中で教育の課題がいろいろと出ますね。そうすると、議会でありもせんことで質問が起きたりするんですね。一番感じたのはね、豊中で僕、障害教育のほうに力を入れて、障害を持った子どもたちを学校へ、こっち来させる運動をしたときにね。親の一人が、プールの中でウンコし

た、どないしてくれるのや、とかね。おしっこしたらどないしてくれるねん、とかね。それから、ああいう子が来るとね、校医さんが嫌がってるからね、校医が逃げそうやとかね。そういう、まあ言えば本当か嘘かわからんようなことが堂々と語られるんですね、議会で。そうするとみんな、ああ、そんなもんか、そんなむちゃくちゃしてんのか、ということになるんですね。

僕はそれがもう残念で仕方なかったね。やっぱり最初は障害者の親でしたけども、議員になってもらって。その後は教組出身の、もう60歳になりましたけど、彼がやってくれてるんですけどね。やっぱり違うことは違うということが言えるようにしておかないとね。何かそんなことが言われたらね、あたかもホンマのようなことをむちゃくちゃしてるみたいに言われてね。酷い目に遭ったことがあるんです。もっと市民のためにがんばってもらうのが普通なんですけど、まあ、そういうことも含めて、やっぱり学校の教育現場をわかってる人が議員になってほしいな、という思いでみんながんばってやっています。

選挙は今もう大変です。さっき冒頭に申し上げましたように、僕らの時は現役のみなさんも一緒にやりましたけども、今は現役のみなさんはほとんどできません。今はもう退職者が中心で、やらざるを得ない。まあ、電話かけぐらいはやってくれますけどね。まあ、教育のことを知っている人が地方議会でおってくれて、間違ったことは正してもらわないかんし、私たちが望んでいるような教育条件の整備もやっぱりやってもらわないかんと思います。

まあ、みんながそれぞれ、市民は教育についてはみんなそれぞれ思ってはるわけですよ。それはそれで大いに結構なんだけど、間違ったことを言われるとね、やっぱり困る。昔はね、教育についてはね、そんなにねと野党対立無かったですよ。その地域の教育を高めようという一点でね。自民党やからね、共産党やからって、そんな、あんまり無かったと僕は思いますわ。だんだんそれがやっぱりね、厳しいことになってきてるのかわか

らんけど。何かいかにも教育を言えば票になるとかいうことなんかな。残念ですけどね。まあ、しかし、これも、今やってくれている人たちも歳取っていったね、新しい人々に代わっていけるか言うたら、どうかなって不安はあります。今の現役の人たちがね、それまでやれるかな、と。なぜそこがやれないんやって言うとな。やっぱり教育の現場におりたいというのが一番ですね。

それから大きいのはね、40歳ぐらいで辞めてね、議員になれと言うことが今日の状況では大変厳しいですね。

《大阪府退教職員協議会副会長と平和人権センターの理事長の仕事》

田淵 それで僕は2000年の3月に退職をして、その後、府退教の副会長をやらしていただき、それから平和人権センターの理事長を2004年5月からやらしていただいています。また、2003年の4月から財団法人大阪府教職員互助組合、これは現職の組織ですが、その退職者組織があるんです。生涯福祉事業委員会というんですけどね。退職しても、掛け金を一定程度預けておけば、そういう医療費の補助受けたり、それからいろんな観劇に参加したり、それから安い宿泊券をもらったりね。そういう制度があるんです。そういう退職互助なんですけども、そこの会長をさせてもらってます。これはこの3月で終わりになります。一応、75歳定年ということになりますので。

豊中では退職者会の会長をしていますが、これもこの春で終えて、新しい人に替わっていただいて、引き継いでいかないかなと今は思っています。まあ、府退教と平和人権センターの方は、本当言うたら早く若い人に引き継ぎたいんですけど、なかなかちょっと人材がいないので、今年1年はやらないかなかな、と、今、思っているところです。

《蘇州大学との交流》

梅崎 あと1つ、蘇州大学があります。

田淵 蘇州大学と交流する大阪府教職員の会と

いうのがあるんです。これはね、私たちの先輩がね、堺の人だったんですけども、20数年前から蘇州大学の日本語学科に日本語を教えに行ってたんですね。それが帰ってこられてね、こういうことをやってきたけども、組織的にやってくれないかという話があって、20年前に、蘇州大学と交流する大阪府教職員の会というのを立ち上げたんです。

それは蘇州大学の日本語学科に先生を送ること。OBですよ。それから1年に10日ほど、学生2人を日本に來させて、ホームステイして、日本をあちこち勉強してもらおうこと。それからもうひとつは旅行団を作って、日本の旅行社では行けないような地域を旅行する会を作ってるんです。それはなぜかと言うとね、蘇州大学で日本語を教えた中国の学生が、旅行社に就職するんですね。その子に聞くとね、蘇州しか知らんです。当時の学生は自分の生まれた地域しか知らないです。

今はもう40前ですけど、まあ、国の事情ですね。それで我々が旅行するから、あんたツアーガイドでおいでと。我々は世界遺産巡りするからと言うて、もう15、6回、やってるんです。彼女がずっとやってくれてるんですね。今度20周年を3月にするんです。そこへまあ、彼女も1回招待してね。もう日本語ぺらぺらで、僕らよりきれいに日本語しゃべりますわ。で、どういう旅行してるかと言いますとね。僕らは、たとえば上海までやったら上海までだけ、往復の飛行機賃ね、できるだけ安いやつを買っていく。今度、5月に行くんですけど、着いて、その時に彼女に今日の1円、何円や、と聞くんす。どのように連動してるか言うたら、ドルと元なんです。今、1ドルが6.5元ぐらいなんです。今、118円ぐらいでしょ、1ドル。で、6.5で割るんです。そしたら17円とか18円が出てくるんです。18円やったら5000円払わないかんかったら、5000円×17円をそこで払う。その時のレートがどうなってるかで国内旅行代が決まるんです。ちょっと楽しみにしてるのはね、ドルの値打ちがだーっと下がってきてるでしょ、今、6.5ぐらいまで行きました。あれ、もっ

と下がるん違いますか。僕ら行ってるもっと前はね、日本の円が強かったでしょ。あのころやったら90円ぐらいの時がありましたやん。90円ぐらいの時に行ったらものすごい得。安うで行けるわけ。まあ、そういうふうなことをしながらね。世界遺産を回って、その子も一緒についてくるからね。世間広めえ、というようなことをしたりしてね。

それからうちの仲間がいなくなった全集ものなんかをね、蘇州大学に送ったりします。ずっと以前には日本語の教科書。中国人向けの教科書を作ったりね。それから彼らが喜ぶのは印刷機とかね、ああいうものを安く贈呈したりね。そういうことでちょうど20年になります。今度20年の行事をやりまますので、蘇州からも人が来るんです。ところで、ちょっと様変わりなことだけ別件で申し上げておきますとね。中国、習近平になってからね、絶対宴会ダメ。日本へ来てね、私たちが宴会準備するでしょ。もう極力、小さくしてくれ、と。

梅崎 何ですか？

田淵 いやだから、そういう党の幹部でしょ。そういう無駄な金を使わすなですわ。すごいですよ。僕らが行くでしょ。行ったってね、前は副学長とか学長なんか一緒にね、20人ぐらいの宴席なんか平気やったですよ。大きなところで。もう一切そんなの無いです。担当者2人ぐらいと、4、5人で、晩飯ちよろちよろっと食わしてくれるだけ。それほど厳しくやる。

言うてましたわ、監査があるんです。南京が京都いうか、そこの監査が終わったら、今度、蘇州に来るんです。党の監査が。それで、全部調べるんです。その幹部の行いからね、金の使い方ね。ごつつ締め上げられてるらしいわ。今やったらね、蘇州大学の先生を呼ぶんでもね。僕らが身元引き受けて呼んだら来たけど、この頃はダメ。だから関西学院大学があそこ姉妹学校なんです。そこに呼んでもらって、こっちに回ってもらうような、だいたい様変わりをしていますよ。えら

いすいません、余分なことを言うて。

《現役組合リーダーへのメッセージ》

梅崎 一通り事前資料についてお話いただいたんですけど、インタビューの最後に、ずっとお話の中で出てきた現役の方々、非常にご苦労されていると思うんですけども、ぜひ先輩としてメッセージをお話いただいて、それでこのインタビューを終了にしたいと思うんですけども。

田淵 やっぱり状況が厳しくなると、なかなか大衆と、そう言ったら大げさですけど、全員を動かすような運動が少なくなってしまっているんですね。僕ね、やれ、やれ言うてやれてないので、たとえば大阪市教組がね、裁判をいくつかしてるでしょう。こないだも一応、教研集會に貸さないのはいかんという判決が出ましたし、今、やっるのが学校で分会會議を開かせえ、という裁判をやっているんですね。裁判で勝つかもかもしれません。しかし、そやけど、たとえばこの間勝った裁判やったらね、みんなにね、勝ったという報告集會ぐらいやって、また今度勝つためには署名運動ぐらいやって、全員を動かさせや、と。裁判やってる連中だけ、傍聴に行くのは数名ですやん。それはアカンと。やっぱり全部がね、この闘いを実感して、負けようが勝とうが、そして全員が次の課題に向かって動くというようなことをやらなかったらね、あきません。そうでないと結束が弱くなるばかりではないかというのが一番心配している。

たとえば、いろんな集會なんかがありますけどね、僕らが若い頃いうたら、10.21で、ストライキの記念日でもあったけども、ベトナム戦争反対とかいうたら10割動員とかかけてね。毎回できませんでしたが、人を集めたけどね。今やね、残念ながら退職者の方が多いいみたいな集會がある。多いとまでは言わんけどね、ちょぼちょぼぐらいの集會。

それはね、忙しいとか、いろいろあるけどね、もうちょっと大衆的にね、運動をやってくれないと、それはしんどいと違うかなと思うから。め

げんとね、そういうところに目を向けて、やっぱり分会ちゅうか地域ごと、その職場ごとに動けるようなことをやらないとアカンことがひとつ。

それから僕も言うているように、教育の課題についてはみんな一緒なんだから、自分とこの学校に教育の課題があったら、みんなでやっぱり取り組むと。それで不十分な人に対してはちゃんと援助もする、というようなことをやっぱりしてね。組合は何かわけわからんもんやなくて、連帯して教えたり助けたりするということをね、身をもってやっぱりやらないかん。こんなの原点の原点なんですけどね。なかなかできてないんじゃないかなという気がして。そやけどね、あんまりにそれを言うとね、やっぱりわからんそうです。

何で僕らが日政連の市会議員を置いたかということを使うでしょ。置いたか、ということはそういうことやから、あんたらもがんばってや、ということをお願いしたいんだけどね、わからんそうですね。当事者、したことないから、そういう場面に

あったこと無いから。

あってるんですよ、実は。僕はあってると思うんですよ。だから、あんまり年寄りがね、これや、あれや、言うてね、ええ格好言うてもね、伝わってるようでね、実感としてはね、伝わらないということです。僕、よくわかります。だから、まあ何もせんているわけにいかんから、やっぱりできるだけ偉そうに言わんと、一緒にやろうと、激励しよう、というふうにしかないかなと思ってるんですけどね。

梅崎 原点回帰と後輩へのメッセージをありがとうございました。これにてインタビューのほうは終了させていただきます。どうもありがとうございました。

田淵 わざわざいろいろありがとうございました。